

PTA 理事会だより

No.2 平成28年10月4日

埼玉県立深谷はばたき特別支援学校PTA本部

夏休みも終わり、2学期がスタートしました。子供たちも皆、元気に登校したようで、ほっとしています。夏休み中には悲惨な事件が起き心を痛めた方もいらっしゃったと思いますが、手をつなぐ育成会会長の久保厚子さんのコメントに心を救われた方も多かったと思います。明るい話題もありました。オリンピックイヤーであったこの夏は、パラリンピックの選手の活躍に一喜一憂し、勇気をもらいました。

9月15日（木）に実施しました 第3回理事会の報告をさせていただきます。

【 専 門 部 活 動 報 告 】

[広報部]

- * 6月16日（木）に「和」第15号の校正作業を行いました。
- * 7月13日（水）に発送作業を行いました。

[進路対策部]

- * 7月4日（月）に進路講演会「将来に向けて」を開催しました。
第一部 卒業生の保護者の話63名参加、第二部 座談会17名参加。
尚、詳しい内容については先日別紙にて報告させていただきました。
- * 7月25日（月）は12月7日（水）に予定している企業見学先（株）エム・エル・エスとの打ち合わせを行いました。

[地域支援部]

- * 6月16日（木）に第1回、第2回地域交流会の日程と内容、役割分担及び親子教室の日程を確認しました。

[厚生部]

- * 7月24日（土）に親子研修旅行、101名参加でディズニースーにバス3台で行きました。
メロンフェスティバルのPTA出し物は「100%勇気」に決定しました。
ベルマークの仕分け作業をしています。

[本部]

- * 6月18日（土）埼特P連第1回知的部会が久喜特別支援学校にて開催されました。
各校の自己紹介、年間スケジュールの確認、陳情について話し合われました。
- * 6月30日（木）第1回学校評議委員会及び学校評価懇話会が本校で行われました。

各学部の授業見学、学校の取り組みの説明の後、委員の皆さんで意見交換をしました。

* 7月2日（土）埼特P連第1回理事会が本庄特別支援学校にて開催されました。最初の全体会で陳情書について協議し、その後、障害種別部会で陳情事項の検討をしました。午後は地区別部会で意見交換会の日程調整、各校の災害時の備蓄等についての意見交換をしました。最後の全体会では障害種別部会検討内容、地区別部会検討内容の発表、役員等研修会内容説明、防災について意見交換をしました。

* 8月6日（土）埼特P役員等研修会が県民活動総合センターにて開催されました。午前は「障害のある人の仕事について」（株）松屋フーズ宮越智裕氏の講演を聞きました。誰とでも挨拶をする習慣、規則正しい生活習慣、なんでも食べられるようにする等、小学部から取り組めることをわかりやすくお話していただきました。午後は4つの分科会に、本校の本部役員がそれぞれ参加しました。

○第1分科会「わが校のPTA活動における現状と課題について」特別支援学校塙保己一学園（川越にある盲学校です）

PTA活動として点字ブロックキャンペーンに取り組んでいて、ゆるキャラのつえぼんと共に駅、街頭での点字ブロックの理解、啓発を呼び掛けているそうです。困っている視覚障害者がいたら、手を差し伸べるなど、できる事をしていきたいと思います。（参加者 根岸）

○第2分科会「誰もが参加できる社会を目指して」和光南特別支援学校

誰もが参加できる社会にするため他校、地域、自治体等に働きかけたり、児童生徒を知ってもらうためにいろんな取り組みをしています。また、埼玉県障害者サポートセンターのセンター長のお話では就労が少しずつ上昇し、企業の受け入れも前向きになり「働ける障害者」を必要としているとのこと。早めに就労準備が必要で、親は子離れの準備をして下さい、とのアドバイスがあり、なかなか難しいですが、子供のためにやらないとですね。（参加者 小野）

○第3分科会「障害者の社会参加について」市立富士見特別支援学校

私は「どうしても家の中に閉じこもりがちになる」という話が心に残りました。障害があるからとの理由で「できる事、できない事」を保護者が決めて、制限をかけてしい、スポーツや家の手伝い等で、やれる事を諦めてしまう。「経験に勝るものはない」と考え、やってみることが大切。外にでる事でたくさんの人と関わり成長する。また、本人の意見を聞く事も大切である。私自信もつい制限をかけてしまったり、時間がかかるからとやらせなかったりが多い。チャレンジさせ、失敗してもいい経験になったと、失敗が成功への1歩だと考えるようにしていきたいと思いました。（参加者 渡辺・横川）

○第4分科会「子育て支援について」行田特別支援学校

母親が働きやすくなる支援を考える視点から母親にアンケートを実施し、行政にも聞き取りを行い、丁寧に分析・課題抽出された資料に感心しました。保護者として居住地の福祉サービスの情報を把握して、効果的に活用することが働きやすさ、更には子供と保護者の充実した生活につながるのだと思いました。（参加者 内野）